

## 我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立志賀小学校

### ○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 【 全国学力・学習状況調査結果 】

#### ① 学力調査の結果

##### 《国語》

国語科においては、長文読解の問題において、正答率が高い傾向が見られました。選択式とはいえ、長い文章や資料を読み取らないと解答にたどり着けない問題であり、最後までしっかりと読めたことが考えられます。

また、観点別では「言葉の特徴や使い方に関する事項」において弱さを示しました。具体的には、指示されたひらがなを漢字に書き直す問題の正答率が低かったです。日々の学習において新出漢字を使った言葉集めや文作りの継続をしているものの、漢字力の定着には至っていないと考えられます。また、同問題において無回答率が高くなっている点については、出題順に回答する中で時間が足りなくなり、回答までたどり着けなかった児童が多かったと推測されます。「書く能力」においては、やや低い正答率を示しました。話の意図を正しく理解できていないために、自分の考えの理由を明確にしながらまとめて書く問題につまずく児童が多かったようです。

##### 《算数》

算数科においては、全般的に無回答率が低く、しっかりと解ききろうとする様子が見られます。また、すべての観点において全国平均と同等の正答率を示しました。特に、「速さ」の問題では、道のりや速さ、時間を短答式で回答する問題においてかなり高い正答率を示しました。これは、日々の学習で、受け身的な学習にならないようにじっくりと自分で考えたり、友だちと自分の考えを交流したりする取り組みを繰り返してきた成果だと考えられます。

しかし、「図形の構成の仕方に着目した図形の計量」の問題において、図形の性質や図形を構成する要素に着目し、筋道を立てて説明することに弱さが見られました。また、三角形の面積を求める公式を適切に用いることができなかつたり、「底辺」や「高さ」を正しく選択できなかつたりする基本的な知識の定着に弱さが見られました。

### 【 今後の取り組み 】

##### 《国語》

漢字の正答率が低かったことから、今後も繰り返し書く練習をするだけでなく、新出漢字を使った言葉集めや文作りなどの自主的な活動を積極的にすすめ、定着の高まりを目指します。

課題の見られた「書く能力」の向上を目指し、国語科だけでなく他の教科の学習中も以下の3点に取り組めます。

- ・長い文章を読む経験を積む。
- ・目的に応じて文章を書く経験を積む。
- ・資料を読み取ったり、資料を活用して説明したりする経験を積む。

これらの経験は、家庭においても日々の読書や新聞等を読む習慣、日記などで積み重ねることができるところから、懇談会や通信等でも情報を発信し、学校と家庭の両方での継続を目指します。

##### 《算数》

全般的な無回答率の低さという強みを維持し、正答率の向上を目指するために、今後も、子どもたちひとりひとりがじっくりと考え、互いに考えを交流する活動を継続していきます。

弱さが見られた考え方の向上を目指し、算数科の指導力点を以下の2点とします。

- ・4年生における図形の知識と技能の定着をはかる。(平行、垂直などの理解を深めるとともに、三角形の面積公式が成り立つ理由についても理解の定着を図る。)
- ・全学年において志賀っ子タイム(昼の帯学習時間)を活用し、各学年で扱う四則計算や面積を求める計算を計画的に継続実施していく。

## 【 児童質問紙より 】

学力調査と同日に行われた児童質問紙の結果を分析し、本校児童と全国との差が顕著である点について以下に示します。

《困難に挑んだり、協力して取り組み達成感を得たりする経験》

本校児童の回答は、やや低い値を示していました。普段の学習や様々な行事などを通して、児童の実態に合わせた適切な課題を設定し、努力して困難に挑みやりきる喜びを得る経験を積み重ねていきます。

《規範意識》

学校の決まりを守ったり、いじめを絶対に許さないと考えたりする児童の割合が、大変高い値を示していました。3校訓を徹底し、ルールを守ること自分たちの生活がよりよくなると感じられた児童が多いと考えられます。今後も、3校訓の徹底を継続し、高い規範意識を育てていきます。

《ICTを活用した学習状況》

学校での学習において、ICT機器を活用することができると答えた児童の割合が大変高い値を示していました。特に、友達との意見交流や調べ学習において高い割合の児童が「ほぼ毎日活用している」と回答しました。ICTを有効に活用し、自らの学びにつなげる習慣が定着してきているので、今後も継続していきます。

《読書時間》

休み時間や放課後、学校が休みの日などの読書時間は、とても短いことが分かりました。学校の図書室や公共の図書館等を利用する割合も低い値を示しましたが、体を動かして友だちと元気に遊ぶことも大切ですので、定期的に一緒に図書館に本を借りに行ったり、毎日、決まった時刻に読書をさせたりして、本を読む楽しさに触れさせていただくようご協力をお願いします。学校でも、学級で一斉に図書室で本を借りるなど、本に触れる経験を積み重ねていきます。

《国語科・算数科に対する関心・意欲》

「国語(算数)の勉強は好きですか」との問いに対する本校児童の回答は、やや低い値を示しました。その反面、「国語(算数)の勉強は大切だと思いますか」との問いに対してはやや高い値を示しました。大切だとは感じながらも、意欲を継続できていない原因を追究するとともに、子どもたちが読んだり話したりする活動や、計算したり考えたりする活動に対しても興味を持てるよう研究と改善を続けます。